

下水道課発

資源循環型農業のス・ス・メ

『脱水汚泥肥料』の有効利用

今回は、奄美市浄化センターで出される『脱水汚泥肥料』を長年利用されている山下農園（山下忠義代表）にお話を伺いました。

Q 山下さんの経歴について

A 笠利町喜瀬出身で現在73歳。平成2年に脱サラして、以前から趣味（花き類）もあって、観葉植物農家へ。

Q 農業の形態は？

A 観葉植物一筋でやっています。種類は「ブラッサイヤ、ゴム、ジャマイカ、コンシンネ等」、11〜13種類。笠利・龍郷で8町歩（8ha）の畑で栽培しています（取材したブラッサイヤ畑は3反で5千本）。

Q 『脱水汚泥肥料』の利用について
A 平成2年からほぼ毎日（正月等を除く）脱水汚泥をもらっています。1日1〜2往復で年間1千トン前後です。『タダ』でいただけるので、とても助かっています。化学肥料は幼木の時だけ（人間にする点滴みたいなもの）。後はこの『脱水汚泥肥料』だけで十分。

『脱水汚泥肥料』の効果としては、化学肥料を使った場合と比べて『葉の色が良い。根が固くない』などが挙げられます。おかげさま（脱水汚泥肥料の効果も伴って）で、うち（山下農園）の植物は、モノ（品質）が良いとの評判を受けています（畑にある時点で買い手予約済、手掘り丁寧に出荷、葉の色も良い）。

このおよそ30年の間、使用させていたでいて、名瀬の処理場には足を向けて寝れないぐらい（笑）。

「過去、この『脱水汚泥肥料』は利用者も多く、「獲り合い」の状況でした。午後1時受付だったので、時間に合わせて電話して予約していました。現在は利用者も少なくなっていると感じています。

私の話がPRの一助になればと思う反面、利用者が増えすぎたら（笑）……。
山下さんありがとうございました。



そのままでも天日乾燥するが、『脱水汚泥肥料』を畑の土と馴染ませて利用

山下忠義代表とブラッサイヤ農園（3年で出荷）